

科目名	履修学年	単位数	教科書	副教材等
数学A	1	2	数研出版 新編数学A	数研出版 3 T R I A L 数学I + A

評価の観点	到達目標および評価の内容
a 知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基礎的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
b 思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。
c 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法	
単元テスト、課題等の提出状況、学習活動への取組などの総合評価となります。	

年間指導計画											
前期						後期					
月	予定 時数	学習内容	評価の観点			月	予定 時数	学習内容	評価の観点		
			a	b	c				a	b	c
		第1章 場合の数と確率						第2章 図形の性質			
4	4	1 集合の要素の個数		○		10	3	1 三角形の辺の比	○		
5	5	2 場合の数	○				4	2 三角形の外心・内心・重心	○		
6	6	3 順列	○	○		11	3	3 チェバの定理 メネラウスの定理		○	
	6	4 組合せ	○	○		12	4	4 円に内接する四角形	○		
7	4	5 事象と確率			○		4	5 円と直線	○		
8	4	6 確率の基本性質	○			1	3	6 2つの円			○
	4	7 独立な試行と確率		○		2	3	7 作図			○
9	4	8 条件付き確率		○		3	3	8 直線と平面	○		
	3	9 期待値			○		3	9 空間図形と多面体		○	
計 70											

※原則として一つの単元ですべての観点について評価するが、特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

履修上および学習上の留意事項
数学Iと同様に習熟度別クラス展開を行う。数学IIなどに継続していく大切な科目であるため、しっかり学ぶこと。